

以下の記載は、表題の診療ガイドラインから漢方製剤に関する記述を抽出したものです。診療において漢方製剤を使用される場合には、必ず、ガイドライン全体をお読みにになり、その位置づけを正しく理解された上で行ってください。

ガイドラインのバージョンは最新のもののみを掲載しています。改定がなされていないガイドラインは、そのまま掲載しています。このガイドラインとその中の漢方の記載を、診療の参考にすべきかどうかの判断は、使用者の責任で行ってください。

エビデンスに基づいた月経前不快気分障害 (PMDD) の薬物治療ガイドライン (2013 年改訂 版)

「平成 20～22 年度厚生労働省精神・神経疾患研究委託費 (20 委-1)
気分障害の治療システムの開発と検証に関する研究」分担研究班
アークメディア、2013 年 5 月 17 日 第 1 版発行

Grading Scale of Strength of Evidence

- 1) 大規模 (各群 100 症例以上) のプラセボ対照 RCT による報告
- 2) 中規模 (各群 50 症例以上) のプラセボ対照 RCT による報告
- 3) 小規模 (各群 50 症例未満) のプラセボ対照 RCT や、プラセボ以外を対照薬とした RCT による報告
- 4) ランダム化されていない対照比較試験や症例集積報告 (わが国で利用可能な薬剤のみ)

Grading Scale of Strength of Recommendation

- A: 最も推奨度の高い治療法
- B: 次に推奨度の高い治療法
- C: 3 番目に推奨度の高い治療法
- D: 最も推奨度の低い治療法

■1 加味逍遙散

疾患:

月経前不快気分障害 (PMDD)

CPG 中の Strength of Evidence:

- 4) ランダム化されていない対照比較試験や症例集積報告 (わが国で利用可能な薬剤のみ)

CPG 中の Strength of Recommendation:

D: 最も推奨度の低い治療法

引用など:

- 1) Yamada K, Kanba S. Herbal medicine (Kami-shoyo-san) in the treatment of premenstrual dysphoric disorder. *Journal of Clinical Psychopharmacology* 2002; 22: 442.
- 2) Yamada K, Kanba S. Effectiveness of kamishoyosan for premenstrual dysphoric disorder: open-labeled pilot study. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 2007; 61: 323-5.

有効性に関する記載ないしその要約:

4) ランダム化されていない対照比較試験や症例集積報告（わが国で利用可能な薬剤のみ）の項に、下記の記載がある。

『さまざまな薬剤が報告されているが、わが国で利用可能な薬剤としては、ノルトリプチリン (n=11)、フルボキサミン (n=12)、ミルナシプラン (n=3)、デュロキセチン (n=50, n=20)、加味逍遙散 (n=6, n=30)、レベチラセタム (n=3) などが PMDD に対して有効であったという報告がある。』

その他の薬剤の項に、下記の記載がある。

『加味逍遙散は、2つの症例集積報告によるエビデンスしかないため、推奨度はレベル D とした。』